

2006年8月25日

DOCOMOMOJapan 代表
鈴木博之様

学校法人東京女子大学
理事長 原田明夫
学長 湊 晶子



本学の旧東寮建物保存についての貴要望書への回答

拝啓 時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。

さて、8月3日付貴要望書を拝誦いたしました。
つきましては、本学のアントニン・レーモンド設計建築物の保存に関する方針について、
下記の通り回答申し上げますので、ご理解を賜わり度いと存じます。

記

1、本学構内には、レーモンド設計の建築物が多数存在しますが、本学としても、その文化的意義と歴史的価値を評価すると共に、建学以来の貴重な遺産としてこれらを保存することの意義と必要性を認識してまいりました。

今後も、文化庁登録有形文化財であります、本館、講堂・礼拝堂、外国人教師館、ライシャワー館、安井記念館、東・西両校舎の7棟につきましては、これを大切に保存する方針です。具体的には、本年よりスタートするキャンパス整備計画においても、必要な改修については、かなりの費用を要しても、周囲のたたずまいと共に、これらの建築物を後世に遺すべく努力をする所存です。

2、ところで、今回、ご要望を頂きました旧東寮につきましても、その建築史的価値、建学の理念の具現物としての価値につきましては、ご指摘の通りであり、このことにつきましては、何の異存もありません。

しかしながら、過日、貴会員の篠田様、兼松様が要望書をご持参の折、本学の桃井事務局長がご説明申し上げました通り、旧東寮の保存につきましては、慎重に種々検討の結果、次の理由でこれを断念し、解体をすることを理事会で決断しております。

(1) 時代の要請に応える教育環境の整備

現在の学生及び将来の学生にとって、より安全で利便性、快適性の高い施設を整備することの必要性

(2) 敷地の制約

施設老朽化が進む中、キャンパスの将来を見据え新たな施設を建設する必要性は必至であり、そのための敷地が現在のキャンパスには残されていないこと。

(3) 財政上の制約

現在の旧東寮を維持し使用し続けるためには、改修工事・耐震補強が必要であり、そのための費用は現在の法人の財政上負担が大きすぎること。

ご要望に沿えず残念ではありますが、本学の旧東寮解体を決断するに至った事情をご賢察の上、ご理解下さるようお願い申し上げます。なお、写真、図面、記念プレート、関係記録等の整理を行ない、旧東寮を末永く記憶にとどめることを計画しておりますことを併せてご理解下さいますようお願いする次第であります。

敬具